

ディリー・ジーザス・ニュース #316

金曜日…苦悩と贖罪の日

イエスの三段階のローマ裁判

ピラトはイエスを鞭打ち、群衆に二度目の釈放を訴える

ヨハネ19:1-6 (並行聖書：マタイ27:22-23、マルコ15:12-14、ルカ23:20-22)

=====

1そこでピラトはイエスを捕らえて鞭打ち、2いばらの冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、紫の衣を着せ、3何度もイエスのところに近寄っては、「ユダヤ人の王。万歳」と言いながら、イエスの顔をたたき続けた。

4ピラトはもう一度出てきて、そこに集まっていたユダヤ人たちに言った。「見よ、私が彼をあなたたちのところへ連れてきたのは、彼に何の罪状も見いだせないことをあなたたちに知らせるためである。」

5イエスが、いばらの冠をかぶり、紫の衣を着て出てくると、ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ。」

ピラトはイエスを釈放したかったので、もう一度彼らに訴えた。「それでは、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるイエス、キリストと呼ばれている方は、どうしたらよいのか。」

6祭司長たちやその下役たちは、イエスを見ると、叫び続けた。「十字架につけろ！ 十字架につけろ！」

三度目に彼は彼らに言いました。「なぜですか？ この男はどんな罪を犯したのですか？ 彼に死刑に値する根拠は見つかりませんでした。」

MTしかし彼らはますます大きな声で「十字架につけろ！」と叫び続けました。

そこでピラトは答えた。「では、あなた方が彼を連れて行って十字架につけなさい。私には彼を訴える根拠が何も見当たりません。」

=====

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	オリーブ山のゲッセマネの園
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦惱と贖罪の日
	イエスの三段階のローマ裁判
タイトル	ピラトはイエスを鞭打ち、群衆に二度目の釈放を訴える

今日の朗読は、主が罪深い人々によって想像を絶する苦しみと屈辱を受けたことを描いています。主は彼らを救うために命を捨てられました。イエスはこの箇所で一言も語られませんでしたが、その沈黙は「神の子羊」としての主の栄光を雄弁に示していました。イザヤはこう記しています。」彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかつた。屠殺場へ連れて行かれた小羊のように、毛を刈る者の前に黙っている羊のように、彼は口を開かなかつた。」（イザヤ書53章7節、NIV）

イエスの磔刑を叫ぶ群衆をなだめ、同時にイエスの命を救う最後の試みとして、ピラトはイエスに鞭打ちを命じました。この恐ろしい刑罰は、鞭打たれた人々の何人かを死なせることになり、群衆の血への渇望を満たし、総督がイエスを釈放することを可能にするだろうと、ピラトは期待していました。

ピラトは、徹底的に鞭打たれ、辱められたイエスはもはやユダヤ人の指導者にとって脅威とはならず、イエスが教訓を学んだことを確信して安心できるだろうと考えた。ピラトは祭司長たちがイエスに抱く憎しみを過小評価していた。

ローマの鞭打ち道具は、約90センチほどの多数の革紐で構成され、それぞれの紐には鋭利な骨片、金属片、木片が編み込まれていた。紐は約30センチほどの木の柄に固定されていた。鞭打ちのたびに皮膚を搔きむしり、引き裂くように設計されていた。鞭打ちで骨や内臓が露出することも珍しくなかった。

打撃は通常、背中を斜めに、右肩から左腰へ、そしてその逆へと、X字型に描かれました。3つ目の打撃は、X字の中心点である背中の真ん中をまっすぐに横切り、背中の右側から左側へと皮を剥ぎ、さらに側面を回って腹部の一部を覆うように続きました。これは残忍な刑罰であり、ショック、失血、そしてそれに続く感染症で死なない限り、生涯の傷跡を残しました。

イエスは小羊の沈黙の中で鞭打ちに耐えました。

その後、兵士たちはイエスにさらなる肉体的、精神的な虐待を加えた。いばらの冠、王への喝采、顔面への度重なる殴打、嘲笑のあまりひざまずくこと、そして王にふさわしい紫色の布。これらすべてがイエスを辱めた。イエスは既にサンヘドリンの前で、ユダヤ人の神殿の衛兵から唾をかけられ、殴打され、嘲笑されていた。これはイエスが顔面を殴打された二度目であった。

兵士たちがやり終えると、ピラトは目的を達成した。イエスの遺体は破壊された。鞭打ちの血が紫色の布を染み込ませ、黒く変色させた。血は茨の冠から頭を伝い流れ落ちた。二度の鞭打ちで、イエスの顔はもはや見分けがつかないほどになっていた。ピラトが群衆の前にイエスを出した時、イエスはひどく虐待されていたため、彼のような状態であれば死は救いとなるだろう。群衆にはイエスを生かしておく十分な理由があった。

ピラトが群衆に向かって叫んだ「この人を見よ！」という言葉は、洗礼者ヨハネが初めてイエスを紹介したときの言葉と重なります。「見よ、神の子羊。この人はまことに世の罪を取り除くのだ！」（ヨハネ 1:29、DJN #029）ヨハネは両方の箇所で同じギリシャ語の言葉を使うことで、苦しむ人であるイエスが本当に神の救いの子羊であることを示していました。

今やイエスの沈黙は子羊としての完全な意味を帯びるようになりました。

3 彼は人々から軽蔑され、拒絶されました。

苦しみを知り、痛みをよく知る人。

人々が顔を隠すような人

彼は軽蔑され、私たちは彼を軽蔑していました。

4 確かに彼は私たちの痛みを引き受けた

そして私たちの苦しみを負い、

しかし、私たちは彼が神に罰せられたと考えました。

彼に打たれ、苦しめられた。

5 しかし彼は私たちの罪のために刺し貫かれ、

彼は私たちの罪のために打ち砕かれました。

平和をもたらした鞭打ちは彼に与えられた。

そして彼の傷によって私たちは癒されるのです。

6 わたしたちはみな、羊のように迷い、

我々はそれぞれ自分の道を歩み始めました。

主は彼に

私たち全員の不義。

7 彼は虐げられ、苦しめられ、

しかし彼は口を開かなかつた。

彼は子羊のように屠殺場へ連れて行かれた。

毛を刈る者の前で羊が黙っているように、

それで彼は口を開かなかつた。 (イザヤ書 53:3-7, NIV)

イエスは、肉体的に鞭打たれ、二度も手と棒で打たれた後、敵の前に立っていた。肉体的な苦痛は明らかだった。しかし、精神的には打ちのめされていたわけではない。群衆の前で沈黙のうちに立っていた。彼の立ち居振る舞いは、かつて王としてこれほど威厳に満ち、威厳に満ちていた者はいなかつた。

ピラトが期待したように群衆の同情を得ることはできなかつたものの、イエスが肉体的な苦しみを乗り越えて心の勝利を収めたことは明白だつたため、群衆はイエスの磔刑を求めて狂乱の咆哮をあげた。彼らはイエスを倒すことができなかつたため、イエスをますます憎んだ。

ローマにおけるイエスの裁判の記録によると、イエスの無罪を主張する声明は7つあり、ピラトによるものが6つ、ヘロデによるものが1つあります。ピラトによる声明のうち3つは、この朗読の中で述べられています。イエスは明らかに義人であり、罪を犯すことなく、罪深い人々の手によつて、彼らのために苦しみを受けました。

応用：

敵がイエスをこのように仕向けたにもかかわらず、イエスはどうして彼らの赦しを祈り、彼らのために命を捧げるほどに彼らを愛することができたのでしょうか。神様、三位一体は愛です。無条件の愛以外に答えはありません。

今日、神の子羊として沈黙を守られたイエスの愛を見つめてください。その愛を礼拝し、あなたも同じように行動しましょう。